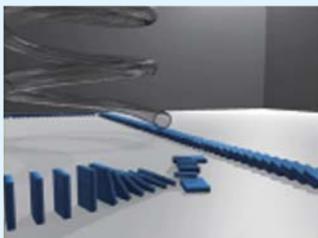
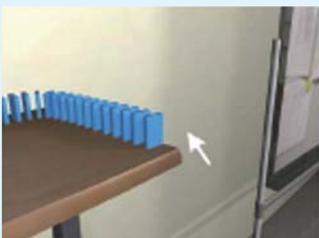
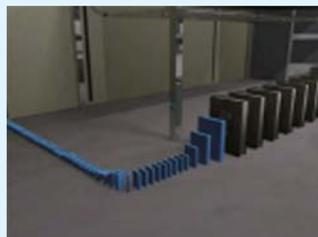
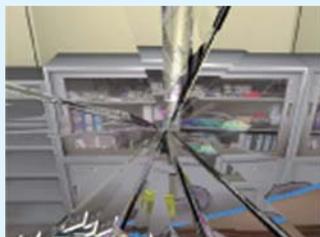




広島国際学院
創立81年



3DCGアニメーション「Virtual Domino」より
情報デザイン学科 第1期生 松本真介 村上道雄 制作
(平成20年3月卒業)

新年度、はつらつとスタート

ガッツ石松さん・川島なお美さん客員教授に就任	2
入学式	2
迫学部長、テレビ番組レギュラー出演	3
V奪回目指し！硬式野球部初の鹿児島キャンプ	3
新年度スタート、新たな試み続々	
工学部・情報デザイン学部	4-5
名手に学ぶファインプレー 現代社会学部	6
徹底指導の成果明らか 短期大学部	7
高校から発信	8-9
新任職員紹介	10-11
四川大地震援助に本学院も協力	10
優勝 中国四国を制覇	11
桑原改造先生（第5代学長）ご逝去	11
隠善選手、開幕1軍選手に	12
今後の主な行事予定	12

広報
第74号
平成20年6月1日発行

ガッツ石松さん・川島なお美さん客員教授に就任

社会学合同演習

おもしろ人生ゼミナール 開講



熱のこもった講義を繰り広げるガッツ石松客員教授

今春より、本大学現代社会学部の客員教授としてガッツ石松と川島なお美の両氏を招聘しました。お二人とも個性豊かな方で、学生から絶大な支持を集めての就任です。学外でも注目の的となり、大きな話題となりました。

講義の第一回目として5月21日、ガッツ石松客員教授による社会学合同演習「おもしろ人生ゼミナール」が、現代社会学部で開催されました。講義では、「自分が誇れる何かを見つけることの重要性」が語られました。聴講に詰めかけた学生達も、大学生活およびこれからの人生を選び取るためのヒントと勇気を頂いたようでした。続いて、ガッツ石松客員教授とのフリートークといった形で、現代社会学部の教員と数人の学生が加わり、なごやかな雰囲気

の中で、あらためてガッツ石松先生のボクシングチャンピオンとしての経歴をはじめとする多彩な人生経験について理解を深めることができました。最後には、学生からの質問コーナーも設けられ、フロアの学生からの質問に対するガッツ石松先生の当之无愧のお答えに会場はおおいに盛り上がりしました。

また、6月に初回講義が予定されている川島なお美客員教授からは、「テーマは、社会学なので広いジャンルで講義することが可能です。事前にアンケートを取り、学生さんの興味関心、現在の悩み、私から聞きたい話の内容等をリサーチし、学生さんのニーズに基づいた講義内容を準備します。学生さんに会えるのを楽しみにしています」との抱負が寄せられています。



川島なお美客員教授



入学宣誓式

【大学・短大】 晴天に恵まれた4月5日、平成20年度大学・短期大学部合同入学宣誓式が厳粛に執り行われました。スクールカラーであるアカデミックブルーの幟が立てられた中野キャンパスでは桜がこぼれるばかりに花をつけ、新しい学友を迎えているようでした。

やがて、幾分緊張した面持ちの新入生が、保護者らを伴って次々に高城体育館に入場、式が始まりました。まず、大学院、大学、自動車短期大学部の順に今村詮学長による入学許可宣言と院生・学生代表の宣誓が行われました。

今村学長の式辞に続いて鶴素直理事長らが祝辞を述べ、新入生を温かく励ましました。

恒例の入学祝賀茶会も5号館前広場で催され、大勢の人が訪れました。澄み切った青空と桜の花をともに愛でつつ、一服のお茶を楽しんでいました。

【高校】 4月8日、前日の雨も見事に上がり、広島国際学院高等学校第62回入学式が挙行されました。本高校の教育理念である「建学の精神」を高らかに謳い上げ、荻野次夫校長は新入生368名に「学び」の意義と確固たる友人関係を構築することの大切さを力強く話しました。新入生代表の東加菜さん(仁方中学校出身)は「入学の誓い」の中で、現在進行形の温暖化に対し「今、高校生に出来ることは何か」を模索すべく高校生活の第一歩を踏み出す決意を述べました。そして式典の後には、昨夏、全日本吹奏楽コンクール(東京・普門館)出場を見事果たした本高校吹奏楽部による演奏で歓迎ムードが盛り上がりしました。厳粛さの中になごやかな雰囲気に満ちた入学式でした。

入学式



高校入学式



「入学の誓い」を読み上げる東さん

迫学部長、テレビ番組レギュラー出演

広島で夕方ワイドショー番組の草分けとしてお馴染みだった広島テレビの「テレビ宣言」が、3月31日に衣替えしました。新たな番組名は、「旬感☆テレビ派ッ！」。

番組では、毎回、レギュラーコメンテーターの弁護士、医師などが、その日のニュースについてコメントし、3～4分間の「テレビ派ッ！コラム」では、独自の意見を述べます。

その木曜日を担当しているのが、本大学現代社会学部長の迫勝則教授。すでにカーブなどの地元の話、専門分野のマーケティングやブランドの話で評判を得ています。

「いま社会で起きていることは、すべて現代社会学部の学問領域です。少しでも視聴者の心に届くコメントができればいいと思っています」と迫学部長は抱負を述べました。番組の放映時間は、平日の16：43から19：00までとなっています。



左から児玉勝司キャスター、糸永直美キャスター、迫勝則教授

V 奪回目指し！硬式野球部初の鹿児島キャンプ

硬式野球部監督・事務部管理課長 繁田 正義

硬式野球部は2月20日(水)から28日(木)、鹿児島県日置市東市来町湯田(湯之元球場・こけけドーム)において春季キャンプを行いました。平成17年・18年の愛媛県四国中央市(三島球場)、平成19年の大分県津久見市(津久見市営球場)に続いて今回で4回目の春季キャンプとなります。学生85名(今年度入学者23名、1年生24名、2年生21名、3年生16名、4年生1名)監督他外部コーチ4人の総勢90名のメンバーが参加。4回目のリーグ優勝と2度目の大学野球選手権出場(神宮・東京ドーム)を目指し、チーム一丸となって練習に打ち込みました。

初日の2月20日には、日置市東市来支所庁舎前において市主催の盛大な歓迎式典が執り行われました。日置市湯田平浩美副市長から歓迎の挨拶が述べられました。監督・向井主将に日置市職員及び日置市国際交流員から花束が、また日置市から特産物(ボンカン・イチゴ)が贈られました。本大学からも80周年記念式典の記念品とお土産を野球部女子マネージャーから贈呈しました。続いて野球部代表として監督が挨拶。市を挙げての歓迎へのお礼と、今回のキャンプにかける強い思いを述べました。最後に東市来町野崎宏昭観光協会長より激励の挨拶が述べられました。その後湯田平副市長や市の関係者を囲み懇談会が行われ、学院や大学の歴史などを紹介しました。

毎日の練習終了時にはキャンプ恒例の大学歌のテープを流し、スタッフを含め全員で学歌を斉唱しました。これには球場の関係者も驚いたようで、今まで様々な大学がキャンプを行っているが、毎日のように学歌を斉唱し、センターポールに大学校旗を掲げて練習する光景は素晴らしいと感激されました。町の中心部や球場入り口には歓迎の垂れ幕や看板が出され、近所の方や地元高等学校の監督や部員などが毎日見学に来られました。野球部も名簿や歴史等のリーフレットを配布して本大学の紹介に努めました。

東市来町の皆様や球場関係者の方々には大変ご迷惑をおかけしました。温かく迎え入れてくださったことに、心より感謝しております。外部コーチ陣の皆様も本業を休まれてまでご参加いただき恐縮です。本当にありがとうございました。



2度目の神宮目指し練習に打ち込む



日置市主催の歓迎式典

新年度スタート、

新入生の絆深まる — 初年次教育「自己の探求」実施



話し合う前に知り合うこと

4月9日と10日、中野・上瀬野両キャンパスにおいて初年次教育の特別授業「自己の探求」が実施されました。工・情報デザイン両学部および短期大学部の新入生246名に教員27名も加わって、学外特別講師の提供するプログラムを受講しました。第1日目は、学習スタイルの自己分析をおこなった上で少人数グループにわかれ、インタビューや個人対話を通してお互いを知り合いました。また所与の課題を討議して結論を決定する活動を通し、話し合いによる合意形成のプロセスを体験しました。第2日目は、価値観・人生観についての自己分析や、コミュニケーションのあり方についての討議をおこないました。ときにゲーム形式をまじえながら、各人の考えや情報を持ちよって結論をうみだす体験を重ねました。そ

して、活動を通してお互いに持った印象や今後へのアドバイスをカードに記して交換し、最後に、この二日間で得たことをグループごとに発表しあって授業をしめくくりました。レポートの内容から新入生の声を紹介しますと、「内向的なので友達もいなかったが、グループの人たちと仲良くなれた(バイオ・リサイクル 男子)」「昼にグループで食事しながら、いろいろな話をして盛り上がった(機械システム 男子)」「これからの4年間に非常に大切な授業だった。毎年やりたい(情報デザイン 男子)」「今まで話し合いというものが暗く重苦しくて嫌いだったが、今回は楽しく積極的に参加できた。会ってから短期間でよそよそしさが無くなり不思議だった(情報デザイン 女子)」などと、同級生としての絆を深め、大学生活のよりよいスタートを切る端緒を得たようです。また外国人留学生も積極的に参加し、「日本人と話すチャンスが少なく、日本語の会話にあまり自信がなかったが、この二日間で日本語が上手になってきた(情報デザイン 留学生女子)」と、今後の大学生活や日本人学生との交流に自信をもちました。



教員も交え和やかな討議

学科オリエンテーション

バイオ・リサイクル専攻

4月7日にバイオ・リサイクル専攻の新入生オリエンテーションを行いました。例年通り学生会館に集合し、教員の自己紹介、チューター別に写真撮影を行った後、上級生も一緒になって食事会をしました。大学生活やアルバイトなどについて先輩に尋ねたり、早速メールアドレスを交換したりして、終始和気あいあいとした雰囲気でした。



開放感あるテラスで食事会



中華料理に舌鼓

機械システム専攻

本専攻の新入生オリエンテーションでは恒例となっているボーリング大会が、4月12日に開催されました。新入生と教員が各レーンに分かれてゲームで汗をかき、和気あいあいの雰囲気ができあがったところで、近くの中華料理店に移動し、昼食を兼ねた懇談会を行いました。教員と新入生の自己紹介では、かなり突っ込んだ質問も飛び出し、学生生活スタートの潤滑剤となったものと思われま

電気システム専攻

4月14日の昼休み、電気システム専攻の新入生オリエンテーションが行われ、教員を含む全員が参加しました。うらかな春らしい天候に恵まれたため、予定を変更して外へ出て、桜の樹の下に食事の席を設けました。ときおり花びらの舞う中、これからの4年間を展望し、大学生活や学業についてにぎやかに歓談しました。



うらかな 桜の下で歓談

HOPES2008特別賞に輝く

みんなで育てる広島宝City Map—わくわく探検隊—

情報デザイン学科 教授 大塚 厚二



「広島宝City Map」画面

広島県・岡山県大学美術系卒業制作選抜展HOPES2008が、3月16日から23日にかけてふくやま美術館で開催され、本大学から出品した「みんなで育てる広島宝City Map—わくわく探検隊—」が特別賞を受賞しました。

この作品の基になったWebサイトは、都心活性化推進委員会(広島市・広島商工会議所)との協働事業として作成したものです。本通・大手町といった中心街にある「他の人にも知ってもらいたいと思う場所や物を、写真と共にメールで投稿していただき、その内容を我々が作った地図に記す」といった趣旨で作成しました。この作品の地図は土山裕一郎君(わくわく探検隊代表、伏見研)が、Webページの基本要素は土山君と矢尾俊祐君を中心に伏見研の学生が作成しました。システムはデータベースと連動しており、自作の地図を使った動きのあるサイト作成を目指し、システム作成では沼田智貴君(大塚研)が中心

となってWeb2.0で注目されているAjaxを使いました。広島を中心地を廻ってもらい、投稿していただくイベント「宝巡り」(1月27日(日))の予告が中国新聞に記事として大きく掲載されるなど、協働事業として恥ずかしくない内容だったと思います。

投稿は2月中旬で締め切り、「宝」の総数は96となりました。この作品はサイト <http://www.hkg.ac.jp/~ohtsuka/> で観ることが出来ます。このサイトにアクセスして、広島中心部に意外な見所があることを知り、買い物の時には実物を見るという楽しみが加われば幸いです。最後に今回の受賞は、上記の人だけでなく伏見研および大塚研の卒業生(旧4年生)・4年生に加え、都心活性化推進委員会そして本通、袋町各商店街のご協力あってこそだと思います。皆様に深く感謝します。



表彰状を手に笑顔の「わくわく探検隊」メンバー
(左から、沼田君、土山君、黒田正義君、小野上達昭君)

学科オリエンテーション

情報デザイン学科

4月26日(土)、新入生と教員の親睦を深めることを目的とした情報デザイン学科の新入生オリエンテーションを行いました。午前中はROUND1 広島店においてボーリング大会を開催しました。ゲームが進行するにつれ、各レーンから歓声が上がリ、学生の会話に教員と上級生も加わり大変和やかな雰囲気でした。お昼には立町キャンパスへ移動し、



立町キャンパスで昼食会



盛り上がったボーリング大会

昼食、ボーリング大会の表彰、自己紹介などで親睦を深めました。午後からは、ひろしま美術館で美術鑑賞を行いました。デザインを学ぶ者にとって、芸術的な感性を育むことはたいへん重要です。熱心に見入る学生・早々に鑑賞を終える学生など反応は様々でしたが、こうした機会を設けること自体に意義があると考えています。これらの体験が今後の学生生活を豊かなものにするきっかけになればと願っています。

名手に学ぶフアインプレー

現代
社会学部

春のスペシャル企画「どう戦う? カーブと地域」



大野氏ならではの視点に聴衆も納得

本学部では、3月22日立町キャンパスにて「どう戦う? カーブと地域」講演会を開催しました。講師は、カーブ黄金期を支えた元ピッチャーの大野豊氏、そして、昨秋刊行の著書『前田の美学』で全国3万人の読者を魅了した迫勝則学部長のお二人。大野氏の「カーブはどう戦うのか? — 今季のペナントレース予想」と題した講演では、現在、野球解説者として活躍中であり、北京オリンピック野球日本代表チームの投手コーチを務められる大野氏ならではの豊富な話題と独自の視点が披露され、また迫学部長の「さらば、広島市民球場 — 今季のカーブは面白い」と題した講演では、有力

選手が抜けた今季のカーブには「リセット効果」が働き、選手の奮起が期待できるという見方が語られ、ホールを埋めた120名の聴衆は、熱心に聞き入りました。昨年10月にスポーツジャーナリスト二宮清純氏を迎えて実施した「カーブを愛する二つの講演会」とともに実りある講演会となりました。



笑顔で質問に答える大野氏

カレッジライフ講演会 「生き方は与えられるものではない、自分でつかみ取るもの」

現代社会学部就職課 黒川 公吾

新しい学年が始まる4月9日、本学部では、広島東洋カーブの往年の名選手で、引退後もカーブの若手選手の育成に尽力された木下富雄氏を講師としてお招きし、「カレッジライフ講演会」を開催しました。

氏は自らの野球人生を振り返り、「30歳になってはじめて自分の出番がわかるようになり、人に認められる仕事ができるようになった」「人それぞれにいるんな道がある」「どこかに自分だけの道があり、その道を探すのは今」「早く気づけば、違った道に出会うこともできる」と語られました。

座右の銘を問う学生の質問には、「日々新たなり」「成せば成る」と答えられ、「今、自分自身にしかできないことに、勇気を持って踏み出していくことを考えてほしい」と講演を結ばれました。

「自分がどのように変わるのか、真剣に考えてください」「一番必要なことは“やる気”です」という木下氏のメッセージは、確かに一人ひとりの学生に届いたようです。



白熱したゲーム

新入生オリエンテーション

本学部では、4月7日に立町キャンパスで学科オリエンテーションを行いました。昨年度までは上瀬野キャンパスのグラウンドでソフトボール等をしていましたが、今年度からは立町へ場所を移してボーリング大会としました。当日は、午前中に教務関係のガイダンスを受けた後、ゼミごとに教員も混じって弁当を食べました。

午後は近くの広島パークレーンへ移動。学生と職員が一緒になって1人2ゲームを楽しみ、汗を流しました。ゼミ別に平均得点を競い、優勝の谷口ゼミ、準優勝の奥園ゼミにトロフィーが授与され、また、個人賞は平均得点順に上位10名へ図書券が贈られました。当初は、初めて出会う仲間に戸惑いの表情が広がった新入生でしたが、ボーリングをしながら自然に笑顔の輪ができ、新年度へ和やかなスタートが切れたようです。

第1回初年次教育実施

学事課長 竹中 常雄

本短大では、今年度から大学と歩調を合わせて、新一年生を対象に4月9～10日の二日間、初年次教育を実施しました。テーマは「自己の探求」として、自己理解を深め、入学生が高校から大学への移行を円滑に行えるように、また、コミュニケーションのとり方を学びこれからの学生生活に自信を持てるようにするとの新たな企画を導入したものです。カリキュラムは下表の通りです。

	1 日 目	2 日 目
午前	①オリエンテーション	⑦グループ討議「私の価値観」
	②実習「あなたの学習スタイル」	⑧実習「私のライフポジション」
	③実習「グルーピング・記者会見」	⑨グループワーク「私を活かすコミュニケーション」
午後	④個人ワーク・グループワーク 実習「総当りインタビュー」	⑩グループワーク 実習「パスは待ってられない」
	⑤グループワーク 実習「コンセンサスを求めて」	⑪個人ワーク・グループワーク「イメージ交換」
		⑫個人ワーク・グループワーク「私の得たこと、学んだこと」
	⑥本日のまとめ	⑬まとめ

実施後のアンケート結果では、「友達が出来た」「コミュニケーション能力が向上した」「友達出来るだろうかと悩んでいたことが解消できた」などほとんどの学生から良い学習の機会であったと好評でした。立ち会ったチューターからも来年もぜひ継続すべきとの意見が寄せられ、所期の目的を十分に達成しました。

学力向上を目的とする少人数教育の実施プログラム

教務委員会 知名 宏

本短大の重点教育施策の一つである習熟度別授業の効果を上げるため推進してきた「学力向上を目的とする少人数教育の実施プログラム」は、平成19年度に「私立大学等経常費補助金特別補助」の対象事業として文部科学省から補助金の交付を受け、3月末までに5つの座学教室へ吊り下げ式専用プロジェクタ(写真)およびパソコンを配備しました。また習熟度別授業として2年間を通して行われている「自動車工学演習 I～IV」のプリントでの授業内容を分野別、段階別に統一的にまとめてテキスト化を完了し、4月からはこれらの器材、教材を活用した授業を展開しています。



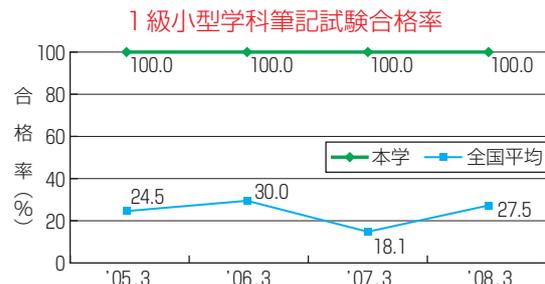
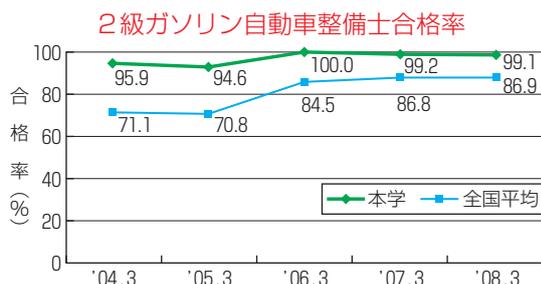
吊り下げ式専用プロジェクタ

今後は各教室へのLAN、音響設備等の充実を図り、より一層学生の学力向上、理解度向上を推進して行きます。

整備士国家試験結果発表 素晴らしい成果!

自動車整備士国家試験事務局 野吹 幸男

3月23日に行われた自動車整備士技能登録試験の結果が、4月8日に発表されました。本短大は、二級ガソリンは1名が惜しい結果となりましたが合格率99.1%(全国平均86.9%)、二級ジーゼルは受験希望者全員合格の100%(同82.7%)でした。一方、一級小型自動車整備士の学科筆記試験は、専攻科卒業生が見事全員合格を勝ち取り、4年連続100%(全国平均27.5%)の快挙となり、一・二級ともに素晴らしい成果をあげました。この成果は二級ガソリンでは個人指導や勉強会でより徹底的に理解させたこと、二級ジーゼルについては、模試を昨年度比大幅増の56回実施するなど地道な努力を継続したこと、また一級では、教科書が新たに改訂された項目について独自に模擬試験問題を作成するなど、さらなる工夫を加えたことが功を奏したと思われます。





笑顔で登校する生徒たち

季節を象徴する満開の桜、絨毯のように三迫川を彩った菜の花。昨年同様、春は違うことなく豊かな彩りをもたらしてくれました。しかし、今年の春はこれまでとは大きく異なる、すばらしい現象が起きています。それは、遅刻をする生徒が激減したことです。

「遅刻」は生徒の一日の生活に大きく影響を与えます。遅刻生徒数の多さに頭を痛めていた生徒指導部は、その対策の一環として数年前より本高校の立地する海田町内の数カ所に教員を配置し現場で直接、登校指導を行ってきました。また、狭隘で危険な道路も多く、野球部やサッカー部の生徒が自発的に早朝より交通整理に当たってくれました。そのお陰で、遅刻生徒数は徐々に減少していきました。

しかし、それでも各クラス当たり毎日1～2名、全校では数十名の生徒が始業時刻に間に合わず、「朝の読書」の時間に参加できない状況がありました。

ところがこの春は、様子が一変したのです。毎朝、挨拶運動を兼ねて校長も登校指導に当たっていますが、“おはよう”と声をかける機会に恵まれない(?)状況です。始業時刻の8時35分には生徒の姿は、校舎の外ではほとんど見ることが出来ないのです。

「朝の読書」に生徒たちは没入しているように見えます。一日をさわやかに清々しく過ごすための要諦、その一つは静寂を創り出すこと。もう一つは時間を守ること。今後の生徒たちの成長が楽しみです。

新体力テストの取り組み

保健体育科

本高校では、1996年度から全生徒に新体力テストを継続して行っています。新体力テストは、生徒の体力・運動能力の現状を確かめるためのテストです。その結果をよく分析して、不足している能力を高めるためにいろいろなスポーツ活動に親しみ、より一層心身を鍛練して、健康で充実した生活を送ることができるよう努力することが大切です。



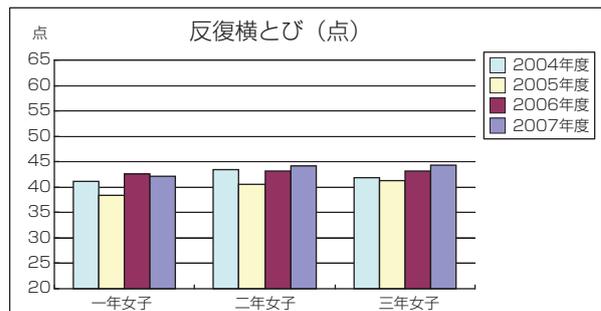
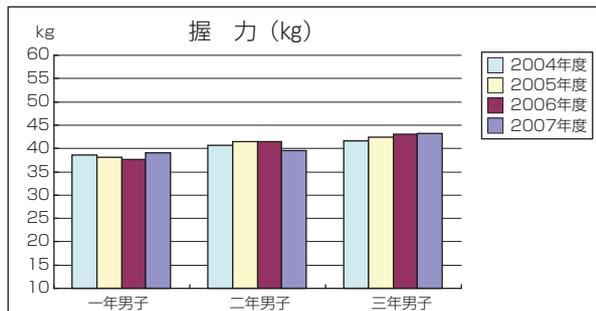
体力測定

本高校の生徒は、日常生活で体力や健康面での不安を感じてはいないだろうか。今年度のテスト結果をもとに、生徒の健康体力要素のレベル分析をし、不足している健康体力要素を高めることが求められます。そもそも日常的に活発に動くことを前提にできている人間の身体は、運動しないと正常に働かなくなってしまいます。たとえば、運動不足で肥満になると、それが原因で糖尿病や心臓病になったり、筋力が弱くなって腰痛になったりします。ですから、私たちは積極的に運動しなければなりません。

本高校生徒の身体の発育状況や体力テストの項目を全国平均と比較すると、昨年までは、全学年を通して男女ともに立ち幅とびと50m走のみが全国平均を上回り、その他の項目においては下回っているのが現状でした。しかし、2007年度の新体力テスト結果分析によると、わずかですが全国平均を上回る項目が増えました。

次のグラフは、2004～2007年度の男子(握力)・女子(反復横とび)の本高校生徒のデータです。日々の体育の授業の導入において、不足している体力要素を補強できる授業内容を検討し、バランスのとれた体力作りに取り組んできた結果が、これまで全国平均に今一步届かなかった男子(握力)・女子(反復横とび)の各項目で結果を出すことができました。

授業を通して、運動やスポーツの楽しさや喜びを味わいながら、心身の発達のために体力や技能を高めるとともに、現在から将来に向けての運動やスポーツへの「親しみ方」や「楽しみ方」を身につけさせたいと考えています。



【テスト項目】・握力 ・上体起こし ・長座体前屈 ・反復横とび ・1500/1000m 走およびシャトルラン ・立ち幅とび

先生、博士になる — 川上教諭に学位授与 —

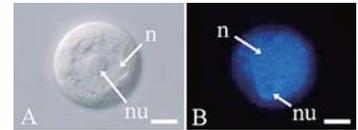
本高校で理科を担当する川上敏行教諭に、平成20年3月に広島大学より学位(教育学博士)が授与されました。学位論文の内容をご紹介します。

学位論文題目：シダ植物の教材特性に関する研究

川上 敏行

本研究では、戦後の日本における教科書でのシダ植物の扱い、観察・実験への利用方法を整理し、学習指導要領と教科書で内容がどのように変遷したかを明らかにした。また、その結果をもとに、生活との関わりなどからシダ植物の教材としての扱い方を検討し、カリキュラム編成の問題点を明らかにした。一方で、シダ植物の教材性についての特性を調べるために、シダ植物の有性生殖に関する基礎的な研究を行い、生きた状態における生殖細胞の細胞学的特徴を解析し、さらに、連続的な受精の観察や試験管内受精を行い、受精の仕組みを明らかにする方法の検討を行った。また、体細胞分裂と減数分裂の観察も行い、生活環のつながりを明確にすることで、新しい教材を開発した。最後に、シダ植物の教材性と教材開発の方法を検討し、新しい教材の示唆や教材開発についての方法について総合的に考察した。

シダ植物の教材性について総合的に考察した結果、①シダ植物は、身近な植物で材料を確保しやすい②無性世代(孢子体)と有性世代(配偶体)の形態がはっきりしているうえ、それぞれ独立して存在するために観察が容易である③孢子形成や受精を含めた生活史のほぼすべての段階が観察可能である④生活に密着し、全国で採集が可能であり、また、現在では園芸によく利用されているため入手経路が多様であるなど、教材に利用可能な特性を多く持っている。また、生活との関わりを考慮すると、地域教材の開発や環境教育などの新しい観察・実験の開発も可能である。さらに、受精の過程が被子植物よりも簡素であるため生命の連続性の説明が容易になり、また、被子植物との比較により植物の進化を扱うことも容易になる。したがって、シダ植物は新指導要領では減少傾向にあるが、取り入れる価値のある教材であると考えられる。



A: 単離した卵細胞
B: 卵細胞のDNA分布 (DAPI染色)
n: 核 nu: 核小体
bar=10 μm



精子が造卵器に入る瞬間
sp: 精子
pm: 精子誘引物質
bar=10 μm

高校



真剣な表情で櫂を操る(総合システム科)

若さみなぎる集団宿泊研修

本年度、11年ぶりに新入生の集団宿泊研修を「国立江田島青少年交流の家」で実施することになりました。若い1学年教員団の中には初めての経験者も多く、手探りでスタートでした。しかし、学年会議を重ねるごとに研修の内容が具体的になり、「絶対成功させよう」「生徒たちの思い出に残る研修にしよう」という教員団の意識も高まっていき、熱い想いを抱いてこの研修を迎えることができたように思います。

研修の柱は、体育祭の練習、カッター訓練、学習活動の3つです。初夏の太陽が照りつける中、生徒たちは大きな声を出し、真剣に研修に参加していました。特にカッター訓練は、普段は経験しないような厳しい指導のためか、カッターに乗る前の生徒の顔は幾分かこわばって見えました。最初は全員心が一つにまとまらず、なかなか真っ直ぐに進まない艇もありました。しかし、これまでの体育祭の練習を通して培ってきた“仲間と協力して一つのことに取り組むこと”が発揮され、艇がちゃんと進むことを体験することができました。その顔は、仲間と力を合わせて進むカッターの水飛沫を浴びて、笑顔へと変化していました。イベントとして取り入れた人文字コンテストやキャンプファイヤーも、各クラスの実行委員を中心に粋なパフォーマンスを披露し、大盛況でした。

目の前には海の広がる雄大な雰囲気の中、真剣な表情や張りつめた緊張を体験することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。担当教官の厳しい指導にしっかりと従い、学校では見せたこともないような緊張感と達成感の漂う表情が実に印象的でした。

この宿泊研修を通じて、「何事もあきらめずにやり抜く大切さ」「仲間同士での助け合いや協力の大切さ」そして「時間を守ることの大切さ」など多くのことを頭だけでなく体でもしっかりと学んだ三日間でした。これらの経験を活かし、学年全体がまとまって有意義な高校生活を送ることができることを期待しています。



仲間と囲む楽しい食卓(普通科)

新任職員紹介 — はじめまして よろしく —

さ さ き てつじろう
佐々木 哲二郎
 現代社会学科教授

精神障害者福祉の現場でソーシャルワーカーとして務め、当事者の社会参加、活動といったテーマで実践と研究に取り組んできました。学部では社会福祉士関連の科目を、大学院では精神障害者福祉論特論を担当します。ともに学び合う関係を楽しみにしています。



ますやま えいいち
増山 栄一 エリック
 現代社会学科准教授

東京で3年、その前は米国の大学で文化言語教育に携わってきました。新学期早々学生に「英語は嫌いです!」と言われました。これから言葉の楽しさ、そして国際交流・理解の重要性を学生達に教えたいと思っています。



はまたに かつのり
濱谷 克則
 自動車工業科准教授

三菱自動車工業で、研究開発に14年、設計に7年間携わってきました。整備の仕事を目指す若い人たちと一緒に車を勉強しなおし、ユーザにとって良いクルマとは何なのか考えていきます。自動車電装などを担当します。



ま の ごう
真野 剛
 情報デザイン学科講師

広島国際大学で2年間勤めておりました。研究領域はアメリカ文学で、特にH.D. ソローを代表とする自然描写や環境問題に主眼をおいた作品を研究しています。英語関連の科目を担当しています。よろしくお願ひします。



ウィリアム カール ムーア
 情報デザイン学科外国人講師

1986年にアメリカからオーストラリアへ移住した後、近代アジア研究、教育学、経営学(修士)などを学びました。これまで早稲田大学で4年、立命館アジア太平洋大学で1年勤務しました。どうぞよろしくお願ひします。



いしざか ひろき
石坂 広樹
 地域連携センター准教授

国際貢献・交流事業の推進を担当いたします。海外において教育政策の研究や国際支援活動に7年以上携わってきました。海外や留学等に興味をお持ちの方は是非気軽に研究室(1号館3F)にお立ち寄りください。



ふじもと ひろたか
藤本 洋隆
 高校教諭

これまで、多くの先輩方にご指導いただき努力してまいりました。その経験を活かし、これからは今まで以上に生徒とともに感動し、私自身も成長していくよう努めたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



くろだ たかひさ
黒田 貴久
 高校教諭

今年度より、また新たな気持ちで生徒と向き合っていきたいと思ひます。「諦めなければ夢は叶う」この高校で夢を持ち、努力する事の素晴らしさを教えていけたらと思ひます。精一杯頑張りますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



いちだ ちかこ
市田 周子
 高校教諭

今年度より5年目の勤務となりますが、専任教諭として採用していただくことになり身の引き締まる思ひです。皆様のご指導をいただきながら、前進したいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。



四川大地震援助に本学院も協力

5月12日に発生した中国四川省大地震を受け、本学院も支援活動に取りかかりました。日本赤十字社の募金箱を本学院の各学校(大学、短大、高校)に配置し、寄付を募っています。また、5月17~18日には中国人留学生が中心となってそごう広島店前と広島東郵便局前で街頭募金活動を行いました。参加者の一人、リュウ ウェイさんのコメントです。

「中国で起きた地震にもかかわらず、広島を始め日本の皆様にご協力いただき、心から感謝申し上げます。

最も感動したのは、お年寄りと子供たちのご協力がとても目立っていたことです。年金またはお小遣いから人を助けようとしていることに驚きました。2日間暑い中募金活動にご参加いただいた45名の皆様にもお礼申し上げます。また、会社や大学そして警察署の協力がなければ、今回の募金活動を成功かつ円満に終わらせることはできなかったでしょう。本当に感謝の気持ちを伝えても伝えきれません。全ての協力者および参加者の方々にお礼を申し上げます。

募金活動を通じ人の暖かさを改めて感じる事ができ、私たちの心に深く刻み込まれました。この思いを忘れずに今後の自分たちの行動に活かしていこうと思ひます。」



街頭募金活動中のリュウさん

ふなだ みやこ
船田 京子
高校教諭

本高校の卒業生です。教諭として母校で教鞭が執れることを大変うれしく思います。生徒が楽しく、充実した高校生活を送れるように全力でサポートしていきます。これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



のむら たつあき
野村 建明
事務部次長兼現代社会学部庶務課長・上瀬野事務室長

前職(広島大学)で教育行政に40年余り関わっていました。4月より引き続き、若い世代の教育現場に身を置くことのできる喜びを実感しています。微力ながら頑張りますので、何卒よろしくお願ひいたします。



ふかだ あきお
深田 明生
学生部学生課長

戸惑いと新鮮さのなかで、周りの人に支えられながら目の前の仕事をこなすのが精一杯です。先日、名誉学院長から頂いた「八十五年の歳月」を読み、琴線に触れる一文に出会いました。「咲くも無心 散るも無心 花は嘆かず 今を生きる」。私もこのような気持ちで勤務していきたいと思っています。



うえうち まさこ
上内 政子
学生部現代社会学部学事課長

若く、澁刺とした学生の方々の大学生活が、楽しく、充実したものとなるよう、後方から応援させていただきまます。非力なため、皆様にご迷惑をおかけすることが多いと思いますが、よろしくお願ひいたします。



たけなか つねお
竹中 常雄
学生部短大学事課長

県立学校に34年間勤務していました。この4月から本大学のお世話になることになりました。毎日が新しいことばかりです。早く仕事を覚え、本大学のために役立つよう努力をしていきたいと思っています。



みかわ さなえ
美川 早苗
総務部人事課人事給与担当課長

広島県を定年退職して、法人事務局総務部に勤務させていただいています。給料・諸手当に関することや福利厚生事務を担当しています。職員の皆様が安心して働けるよう、縁の下の力持ち的役割を果たしていきたいと思っています。



中国四国王座に輝いたアーチェリー部員
(前列左から2人目が出本主将)

優勝 中国四国を制覇 全日本学生王座決定戦へ

アーチェリー部顧問 **荒川 延浩**

去る5月5日(日)に岡山県備前市日生町で行われた中国四国学生アーチェリー王座決定戦において、文武両道の主将・出本敬明君(情報デザイン学科4年)率いる本大学アーチェリー部が8度目の優勝を成し遂げました。6月28~29日に「つま恋」で行われる全日本学生王座決定戦(団体)に出場します。野球で言えば「神宮」に相当します。

桑原改造先生(第5代学長)ご逝去

第5代学長として重責を全うされた桑原改造先生が、去る3月31日に享年87歳を以て永眠されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

先生は昭和19年に広島文理科大学物理学科をご卒業後、広島大学で長らく教鞭を執られました。昭和59年に広島大学を定年退官された後、本大学に教授(附属図書館長を兼務)としてお迎えいたしました。平成元年より副学長に就任され、当時の西本学長を補佐。平成5年に広島電機大学・広島自動車工業短期大学(現:広島国際学院大学・同大学自動車短期大学部)学長に就任、平成9年の任期満了までお勤めくださいました。また、本大学を退職後も、引き続き顧問として本学院運営に多大なご尽力をいただきました。

告別式では西本名誉学院長に加え、門下生代表として山本茂之氏(元産業技術総合研究所)が弔辞を述べました。明朗闊達な人柄から学生に慕われていたこと、バドミントンや連珠ではいつも学生をきりきり舞いさせていたことなど、先生の在りし日の姿が偲ばれました。



隠善選手、開幕1軍選手に

本大学を昨年卒業し、育成選手として読売巨人軍に入団した隠善智也選手が、今春支配下選手に登録されました。高校時代からの母校である本学院にとっても大きな喜びであり、職員はもとより在学生、同窓生など関係者一同まことに誇らしく思っています。

硬式野球部に所属していた隠善選手は、走・攻・守を兼ね備えた主砲として大活躍。広島六大学野球大会2005年春季リーグで優勝し、初の全国大会出場に貢献しました。

2006年に育成ドラフト4巡目で巨人に入団しました。入団当初から2軍の試合にも出場し活躍しましたが、支配下登録までには至りませんでした。この3月21日に努力の甲斐あって念願の支配下契約が成立しました。契約と同時に1軍に合流し、オープン戦で活躍。そのまま開幕1軍入りを果たしました。

3月30日に行われた対ヤクルト戦では9回に代打として登場。公式戦初打席にして二塁打を放ち、堂々のデビューを飾りました。

憧れの1軍出場に益々意気上がる隠善選手が、次のように抱負を語ってくれました。



支配下登録発表での笑顔



試合に臨む隠善選手

「プロ2年目の今季、開幕前に育成選手から支配下選手に登録され、開幕1軍でプロ初打席初安打を放つことができました。育ててくれました高校・大学関係者の皆様に感謝しています。しかし、これに驕ることなく、自分の取り柄である「一日一日コツコツ」と更なる努力を積み重ね、強い気持ちでレギュラー獲得を目指します。今後ともご声援をよろしくお願いします。」

隠善選手は4月21日にいったん2軍に降格しましたが、5月4日に1軍に再昇格しました。5月8日の試合では代打で出場し、プロ初打点を挙げ、続く11日には初スタメンで猛打賞の大活躍をしています。

厳しいプロへの道をあえて選択し、ひたむきな努力を続ける隠善選手の姿は、後輩たちにとっても大きな励みとなっています。本学院としても隠善選手の今後の活躍に期待するとともに、末永く見守っていききたいと思います。

なお、硬式野球部の先輩には、2002年シーズンにプロ野球最速球を記録し、長年活躍しているオリックスバファローズの山口和男投手もいます。

★ 今後の主な行事予定 (赤字は公開行事です)

- 大学・短大 水無月祭 (短・校友会6/7) ソフトボール大会 (大・校友会6/8)
 学外展 (大・校友会6/14~15) 学内献血 (校友会6/19)
 クリーンキャンペーン (短・校友会6/27) 期末試験 (工・情7/26~8/5 短7/30~8/4)
 就職ガイダンス (工・情8/6) 夏期休業 (工・情8/6~9/17 現8/1~9/17 短8/5~9/10)
 後期ガイダンス (工・情・現9/18~19 短1年9/11 2年9/16)
 高城祭 (大・校友会10/18~19)
 高校 体育祭 (6/14) 期末考査 (7/3~8) 終業式 (7/19) 始業式 (9/1)
 オープンスクール (9/28) 中間考査 (2年10/6~9 1・3年10/17~21)
 修学旅行 (2年10/16~20)

大学・短大オープンキャンパス・AO入試が始まります。詳しくはホームページをご覧ください。

この広報誌はホームページでご覧になれます。

<http://office.hkg.ac.jp/kikaku/kouhou/>